

<タイトル>

カーネーションの花持ち性の向上

<当該研究成果のポイント>

花持ちの良いカーネーション品種育成のため、切り花の花持ち日数を指標とした選抜と、その選抜系統間での交配を繰り返す交雑育種により、カーネーションの花持ち性の改良を行いました。その結果得られた、優れた花持ち性が最大の特徴である「ミラクルルージュ」の花持ち日数は、17.7~20.6日、「ミラクルシンフォニー」の花持ち日数は17.9~20.7日と、シム系品種「ホワイトシム」の3.2~3.6倍の優れた花持ちを示しました。

カーネーションの花の老化には植物ホルモンのエチレンが大きく関与しています。両品種とも、自然老化時のエチレン生成量が極めて少なく、通常の品種で花弁の老化が始まるときに起こるエチレン生成量の急激な上昇が全くみられない特徴があります。このことが花を長持ちさせる理由です。

<期待される効果・今後の展開など>

4場所で行った系統適応性検定試験でも、両品種は優れた花持ち性を示し、その他の形質も対象品種と同等であることから実用性は高いと判定され、今後の普及が期待されます。

現在、カーネーションではチオ硫酸銀錯塩（STS）等の品質保持剤により花持ち性の向上が図られていますが、これらの品質保持剤による環境汚染等の問題が指摘されており、品質保持剤処理を必要としない遺伝的に花持ちの良いカーネーション品種は、環境にも優しい品種といえます。

育成した2品種は2005年11月21日に命名登録され、農林番号と品種名がカーネーション農林1号「ミラクルルージュ」、同2号「ミラクルシンフォニー」に決まりました。

<研究所名>

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構 花き研究所

<担当者名>

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構 花き研究所
生理遺伝部 遺伝育種研究室長 小野崎 隆

<連絡先>

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構 花き研究所
企画調整室 研究交流科長 向井 俊博